

作者について



やまべのあかひと
山部 赤人（?—?）

山部 赤人は、奈良時代の歌人です。『万葉集』の代表的な歌人の一人で、すぐれた歌人としてたたえられ、「歌聖」とよばれています。

また、三十六歌仙（藤原 公任という歌人が選んだ、すぐれた三十六人の歌人）の一人です。自然の美しさをよんだ作品を多く残しています。

他の作品



「春の野にすみれ摘みにと来しわれぞ野をなつかしみ一夜寝にける」

「若の浦に潮満ちくれば潟を無み葦辺をさして鶴鳴き渡る」

作者について



かきのもとのひとまろ
柿本人麻呂（？ー七〇八？）

柿本人麻呂は、飛鳥時代の歌人です。すぐれた歌人として、「歌聖」とよばれています。

『万葉集』には、四〇〇首をこえる作品がおさめられています。三十六歌仙の一人です。

他の作品



「東の野にかぎろひの立つ見えてかへり見すれば
月傾きぬ」

「あしびきの山鳥の尾のしだり尾のながながし夜を
ひとりかも寝ん」

作者について



正岡子規 (まぎ おか しき) (一八六七—一九〇二)

正岡子規さんは、明治時代の俳人、歌人です。伊予国（今の愛媛県）に生まれました。

俳句や短歌の革新運動を進め、近代の俳句や短歌に大きなえいきょうをあたえました。三十五歳でなくなるまで、病気とたたかいながら作品を作り続けました。「子規」という名は、血をはくまで鳴くといわれるホトトギスの別名に由来します。

他の作品



歌論集『歌よみに与ふる書』で短歌についての革新的な考えを示しました。また、句集に『寒山落木』、歌集に『竹の里歌』があります。

作者について



なつめ そうせき
夏目漱石（一八六七—一九一六）

夏目漱石さんは、明治時代を代表する作家、英文学者です。江戸（今の東京）に生まれました。大学では英文学を学び、イギリスへの留学後、小説を書き始め、『三四郎』や『こころ』などの作品を次々と発表しました。

「漱石」というペンネームは、中国の古典『蒙求』に由来します。

他の作品



他の作品には、『坊っちゃん』や『吾輩は猫である』などがあります。

大学卒業後に中学校や高等学校で英語の先生をしていた経験から『坊っちゃん』が生まれました。

作者について



芥川龍之介（あくたがわりゅうのすけ一八九二—一九二七）

芥川龍之介さんは、たいしょう大正時代を代表する作家です。
とうきょう東京に生まれました。たつ辰年、辰の月、辰の日に生まれたので、龍之介と名づけられたといいます。

小学生のころから、本が好きでちゅうごく中国の古典小説『すいこてん水滸伝』を読んだり、友達と回覧雑誌らんを作ったりしていました。大学在学中から小説家として活動を始め、以後、短編小説を数多く発表しました。

他の作品



他の作品には、『とししゅん杜子春』、『くもの糸』、『ま魔術』などがあります。

